

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 18 日現在

機関番号：36101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593275

研究課題名(和文) 社会人経験をもつ3年課程看護専修学校生の学習支援のありかた

研究課題名(英文) The Current Nature of Study Support for Mature Students with Experience of Work on 3-year Courses at Nursing School

研究代表者

三木 隆子 (MIKI, Takako)

四国大学・附属看護学研究所・特別研究員

研究者番号：70552115

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：看護専修学校の社会人学生の学習支援のあり方を考えるために、学生と教員に学習及び学習支援の認識についてアンケートを行った。

その結果、社会人学生は、一般学生に比べて学習意欲や基本的学力が高いと認識し、私生活では学業を中心に時間調整する必要があることも強く認識していた。講義・実習等の学習支援に対しては、両者に認識の差はあまりなかった。社会人学生と教員の間では、学習及び学習支援の全ての質問項目群で多くの認識の違いがあった。教員は、社会人学生との間に認識の違いが多いことを認め、社会人学生が経験を活用したい等の成人学習者としての特徴をもつことを理解して学習支援を行う必要がある。

研究成果の概要(英文)：A questionnaire about recognition of study and study support was conducted on students and instructors in order to examine the way of study support for mature nursing school students. The results indicated that mature students recognize they have greater motivation and basic academic ability than general students and have strong recognition that they must adjust their personal affairs to make time for their studies. There was little difference in recognition of study support for lectures and practical training, etc. between mature students and general students. However, there were significant differences in recognition between mature students and instructors with respect all of the questions regarding study and study support. Instructors need to acknowledge that their recognition significantly differs from that of mature students and must provide study support to mature students with an understanding of the characteristics of adult students who want to draw upon their life experiences.

研究分野：看護教育学

キーワード：3年課程看護専修学校 社会人学生 学習支援

1. 研究開始当初の背景

近畿地方の3年課程看護専修学校生に臨地での看護学実習(以後、実習と略記)の学習活動について、学習活動自己評価尺度(看護学実習用)、社会的スキル、自己教育力の測定尺度を用いて、質問紙による自記式アンケート調査を行ない、以下のような予備的研究結果を得ていた。

(1)臨地実習において、社会人の経験がある学生(以後、社会人学生と略記)は、他の人の技術や態度から模範を見出し取り入れようとする行動を、高校卒業後ストレートに入学した学生より多く取っていた。

(2)社会人学生は、社会的スキルや自己教育力が高校卒業後ストレートに入学した学生より高く、看護学実習における学習活動に活用していた。

しかし、社会人学生の学内(講義・演習等)での学習活動の実態は、他の研究者によっても明らかにされていなかった。

2. 研究の目的

18歳人口の減少と看護師不足などの社会現象から、3年課程看護専修学校(3年間で看護師国家試験受験資格を得る)の入学者は約3割が社会人学生になっている。今後も増え続けることが予測される社会人学生の学習支援の検討は急務の課題となっている。そこで社会人学生がもつ学習支援のニーズと教員の支援の実態を明らかにし、社会人学生の学習支援のあり方を考えたい。

3. 研究の方法

(1)社会人学生及び教員に半構成的面接を行ない、社会人学生がもつ学習支援のニーズと教員が社会人学生の学習指導上で気をつけていることの概要を明らかにする。

(2)半構成的面接の逐語録から得たデータを帰納的に分類し、抽出したカテゴリーやサブカテゴリー等をもとに調査票を作成する。社会人学生・入学までに社会人の経験がない学生(以後、一般学生と略記)・教員を調査対象に、作成した調査票で自記式アンケートを行なう。

(3)アンケートの結果から、「学習及び学習支援」に対して、社会人学生と一般学生の認識の違いを明らかにする。「社会人学生の学習及び学習支援」に対して、社会人学生と教員の認識の違いを明らかにする。以上の結果から、社会人学生に対する学習支援のあり方を考える。

4. 研究成果

(1)社会人学生(8人)及び教員(7人)に半構成的面接を行って明らかになった社会人学生の学習支援のニーズと教員が社会人学生の学習指導上で気をつけていることは以下の通りである。

社会人学生がもつ学習支援のニーズとして、学内(講義・演習・看護研究)での学習

支援のニーズには5つのカテゴリー、実習での学習支援のニーズには3つのカテゴリーを抽出した(表1・表2参照)。学内(講義・演習・看護研究)および実習ともに共通する学習支援のニーズとして抽出されたカテゴリーは、「学業(実習)と私生活維持の調整が必要である」、「看護基礎教育(実習指導)について改善要望を持っている」、「働くための技術としての学習をしたい」であった。

教員が社会人学生の学習指導上で気をつけていることとして、学内(講義・演習・看護研究)での学習指導上で気をつけていることとして6つのカテゴリー、実習での学習指導上で気をつけていることとして2つのカテゴリーを抽出した(表3・表4参照)。学内(講義・演習・看護研究)および実習ともに共通する学習指導上で気をつけていることとして抽出されたカテゴリーは、「社会人の経験が学習(実習)にプラスにもマイナスにもなることへの配慮をする」、「学業(実習)と私生活維持の調整への配慮をする」であった。

表1 社会人学生の学内(講義・演習・看護研究)での学習支援のニーズ

( )内:サブカテゴリー数

カテゴリー
看護基礎教育について改善要望を持っている(7)
学業と私生活維持の調整が必要である(5)
社会人の経験を活かしつつ看護の初学者として学習したい(2)
働くための技術としての学習をしたい(3)
一般学生にとけこみたい(2)

表2 社会人学生の实習での学習支援のニーズ

( )内:サブカテゴリー数

カテゴリー
実習と私生活維持の調整が必要である(6)
実習指導について改善要望を持っている(4)
働くための技術としての学習をしたい(2)

表3 教員が社会人学生の学内(講義・演習・看護研究)での学習指導上で気をつけていること ( )内:サブカテゴリー数

カテゴリー
社会人の経験が学習にプラスにもマイナスにもなることへの配慮をする(2)
高い学習意欲を支える配慮をする(2)
学業と私生活維持の調整への配慮をする(3)
一般学生にとけ込めるように配慮をする(2)
講義内容の難易度を社会人学生・一般学生双方のことを考えあわせて調整・工夫をする(2)
プライドとプレッシャーが同居していることへの配慮をする(2)

表4 教員が社会人学生の实習での学習指導上で気をつけていること ( )内:サブカテゴリー数

カテゴリー
社会人の経験が実習にプラスにもマイナスにもなることへの配慮をする(4)

実習と私生活維持の調整が必要なことへの配慮をする(2)

教員は、成人学習者としての特徴(過去の知識・経験を学習に持ち込む)と重なる学習支援のニーズをもつ社会人学生の経験や改善要望でもある提言を尊重しなければいけない。さらに社会人学生の背景や成人学習者としての成熟度に合わせて、指導方法を工夫していく必要があることが示唆された。

## (2)調査票を作成し学生と教員に行ったアンケートの結果

### 調査票の作成

質問項目は、前述のカテゴリーに含まれているサブカテゴリーから、社会人学生の学習および学習支援に対する認識として重要かつ多様な質問項目を作成した。質問項目群は、調査対象者が答えやすいように、基本属性・学習意欲・基本的学力・私生活・講義・看護技術演習・看護研究・臨地実習等とした。

質問項目の選択肢は4段階のリッカート尺度とし、「まったくそう思う」から「まったくそう思わない」まで順番に4点から1点の配点とした。

### 社会人学生と一般学生の認識の比較

社会人学生の学習および学習支援に対する認識の特徴を明らかにするために、3年課程看護専修学校生にアンケートを行った。質問項目群は、基本属性・学習意欲・基本的学力・私生活・講義・看護技術演習・看護研究・臨地実習等であった。社会人学生(197人)と一般学生(517人)の結果を比較した。

基本属性について、最終学歴は、社会人学生が高校34.01%、大学34.01%であり、一般学生が高校89.36%、大学2.51%であった。入学動機は、社会人学生が自らの意思87.31%、一般学生が自らの意思65.38%であった。

基本属性を除く40の質問項目のうち、平均値に有意な差があったのは12の質問項目であった。差のあった質問項目は学習に対する認識に関するものであった。社会人学生は、一般学生より学習意欲や基本的学力も高いと認識し、私生活では学業を中心に時間調整をする必要があることを一般学生より強く認識していた(表5参照)。社会人学生と一般学生の間で、学習支援に対する質問項目が多い講義・看護技術演習・看護研究・臨地実習等の質問項目群では顕著な認識の差はなかった。

社会人学生は一般学生と比較すると、自らの意志で入学したものが多く、成人学習者の学習の特徴の一つである内的要因が学習を動機づけるという傾向をもつことが伺えた。社会人学生には多様な背景に関連する学習意欲・基本的学力・私生活に配慮した学習支

援も必要であることが示唆された。

表5 社会人学生と一般学生の学習および学習支援に対する認識の比較

学習意欲			
質問項目	社会人学生 平均値 (SD) n:197	一般学生 平均値 (SD) n:517	Mann-Whitneyの U検定
クラスの中で学習に対する目的意識は高いほうだ	2.91 (0.83)	2.39 (0.71)	**
クラスの中で真面目に熱心に学習するほうだ	2.79 (0.85)	2.33 (0.77)	**
教員と積極的に関わっているほうだ	2.41 (0.87)	2.42 (0.79)	n.s.

基本的学力			
クラスの中で成績はよいほうだ	2.65 (0.91)	1.94 (0.78)	**
クラスの中で研究をする能力は高いほうだ	2.14 (0.79)	1.75 (0.65)	**
クラスの中で文章力は高いほうだ	2.15 (0.87)	1.89 (0.77)	**
クラスの中で知識レベルは高いほうだ	2.54 (0.87)	1.91 (0.73)	**
全く初めての知識や技術を受け入れる柔軟性はあるほうだ	2.85 (0.78)	2.45 (0.77)	**

私生活			
学業以外に私生活で果たさなければならぬ役割があり、学業と私生活の調整が必要だ	3.14 (0.96)	2.78 (0.88)	**
勉強を中心に時間を調整している	2.63 (0.88)	2.18 (0.74)	**
時間を効率的に活用して学習する必要がある。	3.50 (0.59)	3.42 (0.68)	n.s.
臨地実習中も経済的な自立のためのアルバイト等を行う必要がある	2.23 (0.89)	2.12 (0.83)	n.s.
経済的な自立と実習の両立には難しさがある	3.26 (0.80)	3.22 (0.84)	n.s.

\*\* : P < 0.01 n.s. : not significant

### 社会人学生と教員の認識の比較

社会人学生の学習および学習支援に対しても認識を明らかにするために、社会人学生と教員にアンケートを行った。質問項目群は、基本属性、社会人の経験と看護の学習・プライドとプレッシャー・学習意欲・基本的学力・私生活・講義・看護技術演習・臨地実習等であった。社会人学生(197人)と教員

(186人)の結果を比較した。

基本属性を除く60の質問項目のうち、平均値に有意な差があったのは44の質問項目であった。社会人学生が教員より強く認識していたのは、「社会人としての経験が看護の学習にプラスになっている」、「時間を効率的に活用した学習の必要性」、「経済的な自立のためのアルバイトの必要性」、「看護技術演習は臨地実習や就職時の即戦力につながる内容を学習したい」であった。教員が社会人学生より強く認識していたのは、「社会人の経験が看護の学習にマイナスになる部分がある」、「社会人学生の学習意欲や基本的学力は高い」、「実習指導方針の統一」、「過度に学生を緊張させない実習指導の実践」であった。

社会人学生と教員の間では多くの認識の違いがあった。違いのある質問項目は、社会人学生の学習および学習支援のすべての質問項目群に含まれていた。教員は、社会人学生との間に認識の違いが多いことを認めなければいけない。さらに、社会人学生が成人学習者としてのいくつかの学習の特徴(新しいことは既得の知識や経験と関係づける形で理解する、実用的な知識技術を身につけたいという動機をもつ)をもつことを理解したうえで学習支援を行う必要がある。

#### 引用文献

渡邊洋子、生涯学習時代の成人教育学、明石書店、2007、64 - 82

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### [雑誌論文](計 2 件)

三木隆子、檀原いづみ、關戸啓子、3年課程看護専修学校の社会人学生の学習及び学習支援に対する認識の特徴、四国大学紀要(人文社会編)、査読無、44号、2015、PP.43 - 52

三木隆子、關戸啓子、檀原いづみ、社会人経験をもつ3年課程看護専修学校生の学習支援のあり方 - 社会人学生と教員に半構成的面接を行って -、International Nursing Care Research、査読有、13巻3号、2014、PP.155 - 165

##### [学会発表](計 2 件)

三木隆子、3年課程看護専修学校の社会人学生の学習及び学習支援に対する認識の特徴、第34回日本看護科学学会学術集会、**2014年11月30日**、名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)

三木隆子、社会人経験をもつ3年課程看護専修学校生の学習支援のありかた - 学生と専任教員に半構成的面接を行って -、第33回日本看護科学学会学術集会、**2013年12月7日**、大阪国際会議場(大阪府大阪市)

#### 6. 研究組織

##### (1)研究代表者

三木 隆子 (MIKI, Takako)

四国大学・附属看護学研究所・特別研究員  
研究者番号：70552115

##### (2)研究分担者

檀原 いづみ (DANBARA, Izumi)

四国大学・看護学部・准教授  
研究者番号：20295041